

## 関東甲信越支部長活動報告

2011年4月



支部長 上浪 寛

### 支部執行部からのメッセージ

5月に入り、ようやく余震が収まってきましたが、東京に生活する我々にとっても長期に渡る余震は本当に恐ろしいと実感します。被災地の人々にとっては言わずもがなです。今回の大震災の影響は日本のみならず世界中で、中央集権から地域分散、循環型社会へと大きなパラダイムシフトを社会に与えることでしょう。建築家として当事者意識を持ち、長く続く復興へ向けた行動を継続的に社会に示す事が重要だと思います。5月には地域会、支部、本部の総会が開催され、その後はUIA東京大会へのラストスパートです。3.11大震災で足踏みした点も多くありこれからの準備は大変ですが、災害を踏まえた大会としてテーマを大きく変更することで、私たち建築家がタイムリーに社会へ発信する事ができ、素晴らしい大会開催が期待できると思います。是非皆様の大会参加、並びに準備活動への積極的参加を期待しております。

### 支部長活動報告

- 6日 次週に開催される支部役員会議事検討のため支部常任幹事会を開催した。決算、予算、支部組織再編、事務局改革、次週開催の会員集会、支部総会、UIA東京大会について話し合った。
- 8日 UIA-JOB調整会議が箱崎のホテルを会場として開催された。Cox会長はじめとしたUIA理事が来日した。8日、9日の2日間の議論を経てUIA大会を東京で開催することを再確認した。また、この度の災害を受け、世界の建築家が連携して災害を乗り越えて社会に発信することを大会のテーマとすることも合意した。
- 10日 11日(月)に開催されるUIA大会推進委員会及び本部理事会で協議するUIA大会の方向性について十分な時間を取って話し合うため、芦原会長及び全国支部長、全国推進委員長+関東甲信越委員が芦原会長事務所に集まり議論を重ねた。JOBへ要望するための意見を出し合いのために十分な時間が取れて有意義な会議となった。
- 11日 午前中にJOB小倉会長を迎えたUIA大会推進会議が開催された。JIAとしては、お祭的要素を排除し災害を受けて大きく変革したプログラムで、過去のUIA大会とは一線を画す意義のある大会とするよう要望した。午後は、理事会が開催された。東北支部で所在のわからなかった会員の所在確

- 認が取れ、また家屋や事務所が被災した会員は4名であることが報告された。定款改定の議論が活発に行われた。定款改定には全会員の2/3の賛成票が必要となる。組織的な集票が必須となる。
- 13日 国際委員会が開かれる。5月半ばにAIA大会がある。プレジデントミーティングがあり会長出席が通例だが、同じ日にJIA東北支部の総会があるため芦原会長は東北出席を優先するため、佐野会員が会長代理として出席する報告がある。AIAとはCPDの相互認証の協定について詰めの段階にある。特にアジアからUIA東京大会への参加にインセンティブを与えそうだ。
- 14日 東京建築士会、建築学会、JIA合同で「東北関東大震災合同報告会」がJIA建築家会館で開催された。建築にも想定外の事を準備する必要性や、専門家の存在を社会に明らかにし、専門家のネットワーク、情報の共有が不可欠であることなどが報告、議論された。
- 15日 支部役員会が開催される。冒頭、震災犠牲者へ黙祷を捧げた。UIA大会について、災害を受けてプログラムを変更し開催することを報告。今までJIA会員の中でも参加に消極的な人が多かったが、災害がテーマになれば建築家が当事者意識を共有でき、大会参加しないことの方が問題になる、などの積極的な意見が多く出された。会員集会が開催される。この度の災害についての報告が森岡災害対策委員より話された。定款改定案について森岡定款改定WG主査と会員種別WG主査である上浪から説明する。その後活発な意見交換が行われた。
- 20日 15日の会員集会を受けて、JIA顧問弁護士の松浦先生から定款改定案についてご意見を伺う。UIA大会支部推進委員会が開かれる。プログラムを変更して9月までに間に合うか、など心配の意見もあるが、震災直後だからできる大会として発信できる大会を開催すべき、という意見が多く出た。ツアーについては、多くのツアープログラムが今回の震災や過去の震災、将来の震災を念頭に置くなどしながらも、ツアー開催の意向を示された。
- 21日 本部組織再編諮問会議が開催された。20日に松浦弁護士より定款改定案についてご意見を伺ったので、それを元に定款改定案協議を進める。
- 22日 昼より群馬地域会での通常総会に出席する。総会後のシンポジウムで災害、UIA東京大会について話し合う。夕刻より長野地域会総会懇親会に出席する。
- 25日 本部資格制度委員会、諮問委員会が開催される。震災後、士会連合会との2会協議が止まっているが、秋のUIA大会へ向けた合意形成はスケジュール取りと報告される。2会合意から新制度への移行は間髪入れずに行い、認定機関を一本化する。認定基準が多少違っても認定基準が一緒であることのインパクトは大きい。今後の単位会との協議のため、支部の中で県単位の実務委員が必要になってくるだろう。隣の席に東北から大友委員がお

27日

られた。「とにかく多くの人に現地を見に来て欲しい」と言われていた。  
UIA 大会提言会議が全国支部長、推進委員長を交えて開催される。災害復興支援をテーマに据え、プログラムを大きく変更させることで大会開催の意義が生まれる。建築家の当事者意識を世界中で共有し、社会へ発信する大会を JOB に対して要望し、JIA としてできることを JOB に対して示す。

支部長活動報告 2011年4月

2011年5月作成 上浪 寛



「UIA 東京大会」

<http://www.uia2011tokyo.com/ja/>

「一万人の建築家展」

<http://www.10000architects.com/>